

## 教養教育共同化における異文化理解教育の試み



稲盛記念会館

京都三大学教養教育 研究・推進機構 運営委員長  
 京都府立大学副学長 教授 小沢 修司

平成 26 年度より、京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の三大学は教養教育の共同化を始めています。取り組みの構想については平成 16 年度から開始した三大学の連携・協議の話し合いに遡りますが、なぜ教養教育の共同化を始めたのか、その取り組みの中で「異文化理解教育」がどのような位置を占めているのか、その「異文化理解教育」の具体的な内容はどのようなものなのか、そしてその成果は、ということについてお伝えさせていただきます。

私たちが共同化して取り組む教養教育はリベラルアーツ科目が中心です。初年次教育として、読み書きの力やコミュニケーション力などジェネリックスキルや英語をはじめとする基礎科目、職業選択にシフトした

源を持ち寄ることによって学生に提供する教養教育の選択の幅を大きく拡大させるとともに、三大学の学生が共同の場所、時間に集まって講義を受け、相互に交流すること、ここに私たちが教養教育の共同化を始めた意味があります。私たちの狙いは、現代社会において求められる市民性（シティズンシップ）の涵養です。異なる価値観や視点を持つ他者と協働するためにもそうした多様な他者を相互に認め合う姿勢や資質（シチズンシップ）を身につけなくてはなりません。そのために、教育内容や教育方法、共同で学ぶ施設を重視しました。

ですから、「異文化理解教育」が私たちの教養教育共同化に占める位置はお分かり頂けるかと思います。そうした「異文化理解教育」を象徴するのがリベラルアーツゼミナールの（アメリカと中国はいま）と（現代イスラーム世界の文化と社会）の 2 つの科目です。集中講義として、そしてゼミ形式で開講されるこれらの科目では、「異文化」が（と）出会い交流しあう（混じり合う）ことの衝撃と驚き、新鮮さを実感することになりました。三大学の学生たちもお互いいわば「異文化」な存在です。そんな授業を経験した学生たちは、たとえば、「他大学の人との討論する機会をもっと設けてほしい。この授業のように、テーマを絞っての教養教育こそ教養課程で重視されるべき」、「イスラーム社会について……自分の先入観もなくなりました」といった感想を寄せてくれています。この授業の取り組みと成果を全体で共有し、広げていきたいと思っています。

キャリア教育などが強調される昨今ですが、いわばオーソドックスな教養を重視しています。そして、専攻分野や学生の進路を異にしている三大学がそれぞれの教育資

### 目次

- 1 教養教育共同化における異文化理解教育の試み  
留学交流会レポート
- 2 西安外国語大学日本語教師体験談  
留学生レポート  
三越インターンシップレポート
- 3 マックオーリ大学短期語学研修体験談
- 4 平成 26 年度国際交流協定実績  
マックオーリ大学送り出しについて

## 第 3 回留学交流会を開催しました。

### 事業報告

平成 27 年 5 月 25 日（月）に京都府立大学国際交流委員会と生協の共催で第 3 回留学交流会「羽ばたけ 府大生！」を開催しました。教員 4 名職員 3 名及び生協本部参加者 2 名と府大 OG のゲストスピーカー、府大生 52 人（内留学生 7 名）の方々にご参加いただきました。

イントロダクションでは、府立大学の卒業生で国際交流協定締結校ラヴァル大学に進学をした川口君にカナダでの研究留学について語っていただきました。

第 1 部では、西安外国語大学日本語教師経験者、西安外国語大学からの留学生、米国ディズニールン・ドインターンシップ参加者のスピーチの後、生協提携語学学校の英語模擬レッスンが行われ、最後に府大 OG 青年海外協力隊員としてモロッコに赴任をした方をゲストスピーカーとしてお迎えしました。

第 2 部では、中国の食文化を中心に小松先生に中国についてのミニレクチャーをお行っていたいただきました。

第 3 部懇談会は、生協の学生委員会主導のもと、留学希望者・留学経験者・留学生が楽しく懇談しました。今回は、カナダ・中国・アメリカ・モロッコとバラエティのある国々を体験された方にお話をいただきました。世界にはたくさんの国があり、日本はその国々の一つで様々な文化があるのだ、ということが伝わったのではないかと思います。ご参加いただいた皆さまありがとうございました。



## 西安外国語大学における日本語教師体験談 文学研究科 博士課程2回生 白崎 藍

「知る」入り口



去年の留学交流会にて、私は西安外国語大学で日本語教師として過ごした一年間についてお話ししました。語るうちに懐かしい記憶が思い起こされ、また皆さんが真剣に聞いてくださるのを見て、嬉しく思いました。

中国は日本から見て大変近い国ですが、漠然としたイメージしか持てない人が多いのではないのでしょうか。私自身、中国へ行く前に、「大丈夫なの?」「危ない所だから気をつけてね」という言葉をたくさん貰ったものでした。気遣いはありがたいものの、「危ない」「怖い」という感覚がこんなに浸透しているものか、と悔しく思ったものでした。

「何を考えているのか分からない」という恐ろしさは、無知に起因するものだと思うのです。実際の西安はごく普通の人々が暮らす、ごく普通の土地です。日本がそうであるように、良いところも良くないところもある、当たり前前の土地です。

勿論、始めはちょっとした違い(時刻表がない、すれ違っても会釈をしないなど)にすら戸惑っていました。しかし、慣れてしまえば、辛い生活ではありませんでした。むしろ、西安には大らかで気さくな人が多く、人付き合いに恵まれた一年でした。また、教壇に立つことや、外から日本を見ることを通して、教えられることの多い日々でした。

「日本が好きだから海外に行く必要が無い」という意見を時折耳にします。しかし、「知らない」と「知ろうとしない」ことは、全く違うのです。留学交流会は「知る」入り口として、非常に良いものであると思います。

## 文学部 日本中国文学科4回生 方 紅 (西安外国語大学留学生)

一昨年の十月、日本に来てから、あっという間に一年半が経った。留学のお話を頂いたのが二回生の後期で、すこし悩んだが、「せっかく日本語を勉強した以上は、日本を自分の目で見ないともったいないな」と思ったので、留学試験を受けることを決めた。



初めて日本の地を踏んだ時、心がどきどきしていた。一番印象的だったのは、日本がとても環境がよくて綺麗な国だということだ。車が多いのに、クラクションの音がほとんど聞こえないし、またゴミも分別して決められた日に指定された場所に捨てられている。皆がルールをちゃんと守る社会秩序と生活態度に、私は強い印象を受けた。

日本での生活を今振り返ってみると、辛いこともあったが、非常に有意義だったと思う。まず何より辛かったのは食事のことだ。来たばかりのころは、日本の料理に慣れていなかった私は、自炊を必死に練習した。学校の授業では、初めて日本語ばかりの授業を受けたので、先生が何をしゃべっているのかよくわからなかったが、先生方と日本人の友達にいつも丁寧に助けていただいて、だんだん慣れてきた。いまでも心から感謝している。また、休みの日には、旅やアルバイトを通じて、様々な人と出会って、視野を広げられ、積極的にもなって、自分自身の成長を実感できるようになった。

こうした貴重な経験は私にとって、一生忘れられないものだ。留学交流会では、皆さんの体験談を伺い、非常に興味深かったが、それを吸収して、残りの日本での時間を大切にしながら、今後の生活を楽しみにしていきたいと思う。

## 米国三越インターンシップCRプログラム参加者

文学部4回生 松本 彩香 (松本さんは夏卒業に向けて超多忙のためレジュメの要約を掲載します。)



松本さんは、米国三越CRプログラムで、フロリダのWalt Disney Worldでの3カ月の就労体験に参加をしました。新卒として日本で就職する前に人と違う何かがあったかと思われていたようです。

実際に行ってみると、到着の翌日からオンステージに出られるようになるまで、お辞儀から英語・アメリカの文化・ディズニーや日本の歴史などおよそ一カ月の研修がありました。訳80名の日本人の同僚と、ほとんどが移民の外国人である裏方スタッフ、日本人とアメリカ人の上司と一緒に働きました。

振り返ると、実際に働きながら様々なことを身につけるので、留学ではなくインターンという形で渡米して良かったと思っています。インターン終了後は現場を作る management に関わることを目標としています。

### 松本さんからのメッセージ

13か月という長期のインターンシップは私自身を強くしてくれたと思っています。海外で働くということは楽しいことばかりではありません。悲しいことや辛いこと、悔しさややり場のない思いに苦しみ、沢山泣きました。それでもそこで最後までやり通せたという事実が今の私の自身に繋がっています。様々なことに対するハードルが下がり、やりたいことが溢れるようになってきます。

私はアルバイトとはまた違う「プロとして」「日本代表として」働く経験を学生のうちにできて本当に良かったと思っています。海外生活は長ければ長いほど苦しく、楽しいです。私は自分の経験から、海外に興味のある方はなるべく長期で滞在することをお勧めします。

## 福田 まなみ 文学部 欧米言語学科 2 回生 マックオーリ大学短期語学研修体験記

私は一回生の春休みに一か月間、オーストラリアのシドニーにあるマックオーリ大学での語学研修に参加しました。

留学のきっかけは、留学生交流会に参加したことでした。大学に入学したらできるだけ早いうちに英語圏に留学したいと思っていたので、この語学研修を聞いてから実際に行くまでの時間が短かったので迷いましたが、こういうのはタイミングと勢いが大事だと思い、留学を決めました。

シドニーでは一か月間ホームステイをしました。私のステイ先は、ファザーは中国人、マザーはシンガポール人というアジア系の家庭でした。最初は驚きましたが、オーストラリアは多国籍国家でアジア圏からの移民も多く、ステイ先がネイティブの家庭でないこともそう不思議なことではないのかもしれないと思いました。

語学学校は、12人程度の少人数編成クラスで、平日の午前中は毎日、英語で英語を学びました。ネイティブの先生から発音を習い、日本人が多いクラスでも授業中は積極的に英語を使ってコミュニケーションをとりました。教室は四方の壁が白色で、壁全面がホワイトボードの役割を果たす画期的な構造になっていて、先生から出された問題の答えをペンで壁に書くため、授業中もアクティブに動くので退屈しませんでした。

平日午後や休日はフリータイムだったので、オーストラリアでできた友達とショッピングに行ったり、ビーチや動物園や水族館などのシドニーの観光スポットに行ったりして楽しめました。

海外に一か月という人生初の留学は、行くまでは不安もたくさんありましたが、毎日たくさんの驚きと楽しさに出会えた一か月は長いようであっという間で、帰るころには物足りないくらいでした。好奇心と思い切りで世界は拓けます。留学を悩んでいる人には是非行ってほしいです。



## 後藤 亜依 文学部 欧米言語学科 2 回生 マックオーリ大学短期語学研修体験記

オーストラリアでは、たくさんのことを経験したのですが、最も印象深いのは様々な人との出会いです。現地で日本語を学んでいらっしゃる方々と交流しましたが、そのレベルの高さには驚かされました。日本人の話している日本語と、なんら変わらない流ちょうさでした。母国を離れ、単身オーストラリアに住み、大学に通っている人や、ドイツの大学生の方で、全てを自分で手配して、オーストラリアでマーケティングを行っている人もいました。私が出会った人達は、自分の夢を持ち、それに向かって行動していました。私は、今回の留学について、明確な目的意識を持っていなかった自分を恥じました。そして、自分の大学生活や将来について、気持ちを新たにすることができました。

動機が判然としない留学でしたが、得たものはたくさんあります。オーストラリアに行く前は、最低限自分の意志を英語で伝えるくらいは不自由しないだろうと思っていました。しかし、実際現地に着いてみると、英語を書くことと話すことは全く違うのだと痛感させられました。最初は、言いたいことをスラスラ言えなかったり、人に尋ねられた内容が聞き取れなかったりと散々な状態でした。しかし、日に日に聞き取れるようになり、積極的に人と話せるようにもなりました。そして、オーストラリアを発つときには、ホストマザーから、あなたの英語は上達したよと言ってもらえ、自信をつけて日本に帰ってくることが出来ました。

この1ヶ月は、とても濃密な1ヶ月でしたが、飛ぶように過ぎてしまいました。ここに書いたことは、私の経験の1割にも満たないものです。留学を迷っている方がいらっしゃるなら、是非挑戦して、残りを全て自分で経験してほしいです。



## 田端 真子 文学部 欧米言語学科 2 回生 マックオーリ大学短期語学研修体験記

私は2月下旬から1か月間、オーストラリアのシドニーにあるマックオーリ大学に留学させていただきました。私がマックオーリ大学への短期留学の話を知ったのは年末に開催された京都府立大学の国際交流のイベントです。「オーストラリアの大学が日本人留学生を募集している」。その情報がすべての始まりでした。その話を聞いて留学を決断するまで時間はかかりませんでした。

留学をする際に大切だと感じたことが2つあります。一つめは目標や目的を決めて留学するということです。自分の行動で充実度が決まる環境の中であり、かつ滞在する時間が限られている中でうまく時間を使うには、あらかじめ目標や目的を決めておくことが最善だと思います。私はこの留学に行く前に3つの目標を立てていました。一つめはシティ（中心街）と京都を色々な面から比較する。二つめは現地の人と交流する。三つめはむやみに「Yes」と言わないということです。もう一つ大切だと思うことは「多くのことを経験する」ということです。向こうの授業では事前に課題が出されます。ですからその課題に取り組むため多くの時間が必要になります。しかしせっかく異国の地にいるわけですから日本では経験できないことをするというはとても大事なことです。時間をうまくやりくりしたり多少無理をしてもチャンスを利用することで、私はかけがえのない思い出や友人を得ることができました。

これからの大学での学習や生活の仕方にしっかり反映していきたいと思っています。



## 平成26年度 国際交流協定校との交流状況

国際交流協定校一覧※26年度締結校	主な交流実績
ラヴァル大学 (カナダ)	協定の更新。国際京都学シンポジウム・モデルフォレストDAY国際シンポジウムの開催。ラヴァル大学ナンシー・ジェリナ教授の来学。
西安外国語大学 (中華人民共和国)	教員の受入 (中国語授業及び職員向け学習会の開催)、府大教員の送り出し。ダブルディグリーによる学生の受入、日本語講師として学生の送り出し。
雲南農業大学 (中華人民共和国)	教員3名・学生9名の短期来日。雲南農業大学短期研修旅行の送り出し。
昆明理工大学 (中華人民共和国)	共同研究・科学研究費補助金の採択。
キングモンクット工科大学トンブリ校	共同研究の実施、情報交換、研究者の来日と学生の交流。
Mahidol 大学 (タイ王国)	共同研究と Mahidol 大学学生の指導、協定更新については期間を5年間とすることで合意。
タクシン大学 (タイ王国) ※	タクシン大学における国際シンポジウムと第35回京都植物バイテク談話会シンポジウムの開催・講演、協定の締結と共同研究の実施。
国立雲林科技大学 (台湾)	特別研究学生の受入・雲林科技大学卒業生の受入 (博士学位取得)・台湾における基調講演・学生の共同指導。
タデウラコ大学 (インドネシア共和国)	日本学術振興会の二国間共同研究による、日本側研究者のインドネシア訪問とインドネシア側研究者の日本訪問。
ウィーン農科大学 (オーストリア共和国)	Thomas Resenau 教授を招いて学生との交流会の開催、協定に基づく交流についての意見交換。
レーゲンスブルク大学 (ドイツ連邦共和国)	サマーコース学生21名送り出し。青地教授客員教授として6ヶ月間在外研究。教員の受入。学生2名10ヶ月間送り出し。
ガーナ大学 (ガーナ共和国)	JICAと京都大学での資金により共同研究員のガーナ送り出し。京都大学において「ガーナを知ろう」セミナーの開催。ガーナ大学・株式会社明治・京都府立大学による共同研究の実施。

＜平成27年度 国際交流委員会＞

委員長 川瀬 光義 教授

副委員長 椿 一典 教授

文学部 上田 純一 教授

公共政策学部 中根 成寿 准教授

生命環境学部 長島 啓子 助教

学務課 堀口 智史 課長

企画課 植村 智豪 課長

【事務】

増田 綾子

川崎 さわか

## オーストラリア短期語学研修へ学生の送り出し～事務局企画課より～

### 1. 送り出すまで

昨年の春頃、国際交流委員会宛にオーストラリアのマックオーリ大学から、府立大学を担当者が訪問したい旨連絡がありました。本学では英語の研修プログラムがなくそのように伝えたとところ事務局同士のメールのやり取りが始まりました。春の段階では話がまとまりませんでした。12月に再度オファーがありました。第2回留学交流会で話題にすると3名の学生が参加を希望し学生を送り出すことになりました。この段階では実際に話をしたのが春に来られた職員の方のみで、送り出すのに不安もありましたが、今回は京都産業大学のグループに混ぜてもらえることになり、京都産業大学を2度訪問し、これまでの短期研修プログラムの感想文など見せてもらって安心して学生を送り出すことが出来ることになりました。



ジャッキーさん訪問

### 2. 和食のレシピ

いよいよ学生を送り出すことになり、渡航中にお世話になった人に和食を振る舞えたら素敵だろうなと思いつきました。国際交流では

様々な国の料理を集めたイベントがよくありますし、おいしい食事があれば自然に話が盛り上がります。そこで京都和食文化研究センターにお願いをして和食のレシピを用意してもらいました。渡航された皆さんは、お好み焼きや親子丼、ベジタリアン用の野菜食などを作られたようで、食材について質問を受けるなど好評だったようです。

### 3. 担当者の訪問

平成27年4月24日には Study Tour Program 担当者のジャッキー・マッキントッシュさんが来学されました。文学部教員3名と語学研修参加者が対応をし、ときおり日本語を交えながら英語で授業の様子や、クラス分けについて、ホームステイの様子など歓談しました。また、マックオーリ大学の語学学校の説明などもしていただきました。今後の交流が期待されます。

発行日 2015年7月

発行責任者 国際交流委員会委員長 川瀬光義

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町 1-5

TEL: 075-703-5905 Email: IECC@kpu.ac.jp